



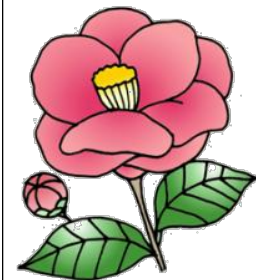
最後の青翔だより

校長 高野 勉

3月5日、生産科学科6名・総合学科12名の合計18名が本校最後の卒業生として巣立って行きました。4月からそれぞれの職場や進学先で新たな生活が始まります。卒業生が新しい環境にいち早く馴染み活躍されんことを願わずにはおれません。この日は9時から卒業式、引き続き11時から閉校式、13時から閉校記念パーティが順次執り行なわれました。私は、卒業式で厳しい社会に船出する卒業生に次の2つのことを餞（はなむけ）の言葉として送りました。まず第一は、若者の離職率が高いことから「石の上にも3年」の精神で一度決めた職場では最低3年間、苦しくとも粘り強く辛抱することをお願いしました。仕事内容を覚えそれぞれの職場で戦力となるには、それ相当の期間と経験を必要とするからです。第二は、めまぐるしく変化する社会を冷静に観察・判断する能力を培い、物事の多面的な見方と自分の生き方を模索するために「新聞を読むことと読書をする習慣を身につけて欲しい」ということです。最後に「疾風において勁草を知る」という言葉を引用して、卒業生に逆境の時にこの勁草になってもらいたいという願いを込めました。

そして閉校式。竹中県教育長、持本能登町長をはじめ沢山のご来賓並びに同窓生に参加をいただきました。奥能登地域の生徒減少により平成14年、柳田農業高校と町野高校の統合から僅か9年間で再度の統合を余儀なくされました。この青翔台の地は、柳田農業高校・能登青翔高校と長い歴史を刻み、連綿として教育活動が展開されてきた場所です。閉校を目のあたりにして、同窓生は心にぽっかり穴があき、とても寂しい気持ちになったことと思います。ここに長い間勤務された旧職員や地域の人も同様の思いを持たれたのではないのでしょうか。学校行事として、ゴミや空き缶を拾いながらの柳田植物公園まで歩くボランティア遠足や猿鬼歩こう走ろう健康大会への参加、「豊かな農村」と銘打った開放講座にも沢山の地域の人たちにご参加いただきました。本校は地域の皆様との結びつきを大切にしてきましたし、また地域から支えていただいた学校でもありました。閉校記念パーティは国民宿舎やなぎだ荘で行われ、同窓生、旧職員、本校をご支援いただいた地域の関係者、現職員など総勢100名以上の皆様にご出席をいただきました。旧職員や同窓生のスピーチ、思い出のスライド、更には柳田きりこ保存会のアトラクションで華を添えていただきました。同窓生同志や恩師との懐かしい思い出話で各テーブル盛り上がっていました。ご存知のように、本校の校舎は能登高校の地域創造科の農業・福祉コースの実習棟に、遠方の能登高校生のため「鳳柳寮」もそのまま活用されます。本校と能都北辰高校が統合され、能登町唯一の高校である能登高校が末永く発展されんことをお祈りし、今後も微力ながら応援していきたいと存じます。学校の状況を保護者や地域の皆様にお伝えするため、この「青翔だより」の発刊を続けて参りました。今回で最終となり、発刊第58号を数えました。最後に本校同窓生の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈りしますと共に、今年度の閉校まで永きに渡って変わらぬご支援ご厚情を賜りました地域の皆様、本校を支えていただきました関係者の皆様方に感謝申し上げます。

本当に長い間ご支援・ご協力ありがとうございました。





卒業生入場



卒業式



生垣賞授与

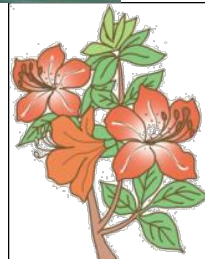


答辞



送辞

3月5日、卒業式および閉校式が行われました。多くの方々にご出席いただき、感謝を申し上げます。お陰様で立派な卒業式ができました。



校旗返納

閉校式



惜別の辞

これまで長い間ご支援いただき、ありがとうございました。

